

六月朔日  
官軍(薩摩藩)通行の記事【足立家61-1】

8 御関処日記 辰四番

官軍(薩摩藩)通行の記事【足立家61-1】



「御関所日記」「御用留」等

『埼玉県史料叢書第16巻』収録分【足立家59ほか】



27 子供あそびぼんでんまつり(戊辰戦争風刺錦絵)

左が薩長等、右が会津・仙台等【足立家1051】

- |        |   |
|--------|---|
| 1 期間   | 平成25年3月5日(火曜日)～平成25年6月2日(日曜日)<br>※ 休館日：月曜日、国民の祝日、特別整理期間(5月8日～14日) |
| 2 展示場所 | 埼玉県立文書館 1階展示室 <a href="#">アクセス</a>                                |
| 3 観覧料  | 無料  |

## ■開催にあたって

江戸時代の栗橋の地は、五街道の一つである日光街道栗橋宿として発展しました。また、この地は利根川の渡河点でもあり、交通の要衝であることから、江戸幕府によって人や物資の往来を管理するための関所が設置されました。栗橋関所は、明治2年(1869)に廃止されるまで、江戸幕府の交通・流通支配を担う拠点として機能しました。

当館には、この栗橋関所の管理・運営にあたった番士の一人である、足立家の史料約 1,300点が寄託されており、「足立家文書」として公開されています。この足立家文書のうち「栗橋関所日記及び関係資料」94点は、平成15年(2003)に埼玉県指定文化財に指定されました。県ではこの貴重な史料を県民の皆様に活用していただくため、その一部を『埼玉県史料叢書 栗橋関所史料』として翻刻し、計画的に刊行してまいりました。

本展示は、その最終巻となる『埼玉県史料叢書第16巻 栗橋関所史料五』の刊行を記念して、第16巻に収録される「御用留」「御関所日記」などから、戊辰戦争を中心とする幕末の動乱と栗橋関所の廃止に関する史料を紹介するものです。

本展示を通じて、本県における幕末維新期の歴史について理解を深める一助となれば幸いです。

平成25年3月

埼玉県立文書館長

## 1. 戊辰戦争の開戦と栗橋宿打ちこわし

慶応4年(1868)正月3日、鳥羽・伏見の戦いが勃発(戊辰戦争開戦)、官軍(新政府軍)は江戸に向かって進撃を開始しました。栗橋関所(正式には「房川渡中田関所」)の「御用留」には、「大坂大戦」があつて徳川慶喜・松平容保が船で急に江戸に帰って来たことを知らせる諸家の早駕籠が10・11日頃に通つたとあります。25日以降、負傷して国元へ帰る会津藩士が栗橋関所を通行し、2月17日には隠居した容保が通っています。

3月9日、東山道軍は熊谷宿に到達、下野国梁田宿(栃木県足利市)の旧幕府軍(8日まで羽生陣屋に在陣)を撃破、翌日には羽生陣屋を焼き討ちしました。このとき栗橋宿には旧幕府の新遊撃隊が宿泊しており、官軍襲来の情報もありましたが、同隊は退避して事なきを得ました。しかし、羽生陣屋焼討ちを契機に発生していた打ちこわし・放火が、12日には栗橋宿に波及して関所も襲撃されました。



### 6 羽生陣屋他放火・打ちこわし家々書出【鬼久保家2615】

## 2. 戦況の推移と栗橋関所

栗橋関所史料には、軍勢・武器の通行記事や各地の戦況に関する情報が多数記載されています。

慶応4年(1868)4月初め、宇都宮藩救援に向かう官軍が栗橋関所を通行しました(11日江戸開城、脱走兵多数)。16・17日の下野国小山の戦いで官軍は敗退し、18日には関所の通行改めを嚴重にするよう官軍から指示が出ています。宇都宮城が落

城した翌日の20日、官軍の命によって彦根藩士が関所へ勤番することになりました。勤番は古河藩に交代し、通行改めは勤番藩士が担当、番士は立会として関所に出勤しました。ちなみに、4月26日には、板垣退助(土佐藩士)が関所を通行しています。

6月初め、旧幕府勘定所が民政裁判所となった知らせを受けた番士たちは、関所が存続するならば継続勤務したいと希望しましたが、奥羽・下野が鎮静するまでは、通行改めは勤番の古河藩士に任せたい旨伺いを立てています。その後、一旦罷免される等の曲折を経て、番士は「朝臣」となり、9月1日より立会出勤が始まり、通行改めは引き続き勤番藩士が行いました(席次は番士が上席)。



## 28 徳用奥羽屋

ろうそく屋を描いた錦絵です。会津藩を中心とする東北諸藩と官軍(薩長等)の戦いが長引いている状況を、売買の交渉がうまくいかない様子で暗示しているとされます。ろうそくは会津の名産で、のれんの「徳用」は「徳川」とも読めます。そろばんをはじいている大番頭が会津藩、腰掛けて値段を掛け合っている人物が長州藩(毛利)です。

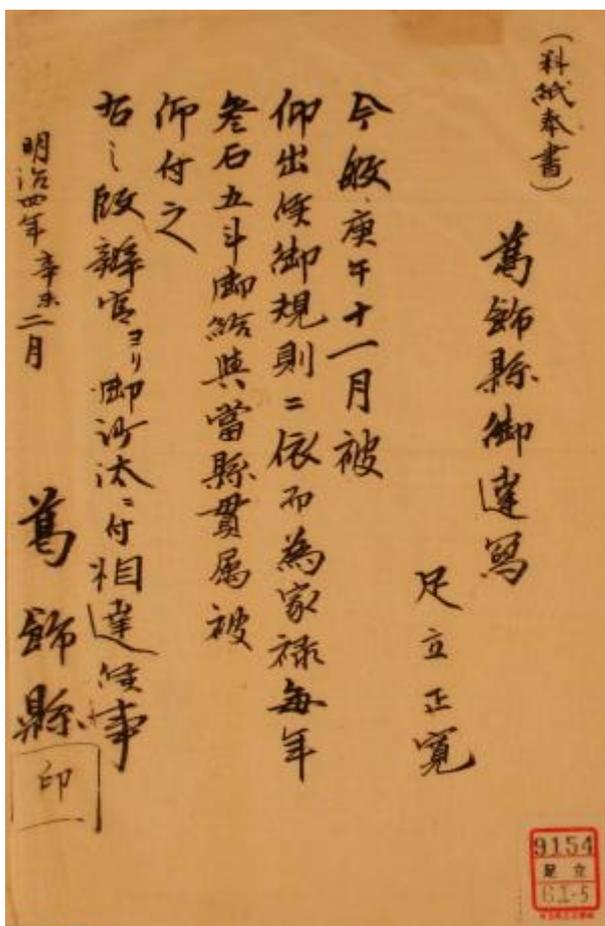
## 3. 栗橋関所の廃止

慶応4年(1868)9月8日、改元して明治となり、15日仙台藩、22日会津藩、24日庄内藩が降伏しました。11月末に至り、奥羽筋が鎮静したとして、古河藩の栗橋関所勤

番解除が決定し、12月1日をもって、勤番藩士が引払い、通行改めは番士が行い、旧に復することになりました。

翌明治2年(1869)正月20日、箱根をはじめとする全国の関所を廃止する布告が出されました。栗橋関所に正式な通達が届いた2月18日、番士たちは、即刻通行改めを取り止め、葛飾県へ引き渡す関所の建物・高札・書物・鉄砲・諸道具を宿役人に預けて、関所を引き払い役所に帰りました。ちなみに、「御関所日記」に記事がある最後の通行は、17日の降伏した会津藩士320人です。

今回の展示では、関所廃止後の足立家等の動向に関する史料も展示します。



34 葛飾県御達写(家禄给与等に付達)【足立家61-5】

コーナー展示「栗橋関所関係文書展 2—幕末の動乱と栗橋関所の廃止—」展示資料  
一覧

No.	資料名	年月日	文書番号	期間
-----	-----	-----	------	----

1 戊辰戦争の開戦と栗橋宿打ちこわし

1	御用留 拾四冊之内十三番—展示箇所は 出流山事件—	慶応 3.正. 元～	足立家 57	後 期
2	御用留 拾四冊之内十四番終—展示箇所 は松平容保通行—	慶応 4.正. 元～	足立家 58	前 期
3	御関所日記 戊辰二番—展示箇所は栗橋 宿打ちこわし—〔後期はパネル〕	慶応 4. 2.14～	足立家 59	全 期
4	御関所日記 戊辰三番—展示箇所は新遊 撃隊宿泊と官軍来襲の報—〔前期はパネ ル〕	慶応 4. 3.19～	足立家 60	全 期
5	御触書写(薩賊召捕・討取の儀につき触書)	慶応 4. 正.13	高橋(周)家 192	全 期
6	羽生陣屋他放火・打ちこわし家々書出〔パネ ル〕	慶応 4. 3.10～	鬼久保家 2615	全 期
7	高札(五榜の掲示第2札 徒党・強訴・逃散 禁止)	慶応 4. 3	小島(栄)家 1260	全 期

2 戦況の推移と栗橋関所

8	御関処日記 辰四番—展示箇所は官軍(薩 摩藩)通行—	慶応 4.閏4. 27～	足立家 61-1	前 期
9	御関処日記 辰五番—展示箇所は番士と古 河藩士の席次等—	慶応 4. 8.20～	足立家 62	後 期
10	江戸より日光まで宿場絵図〔パネル〕		稲生家(旗 本)724	全 期
11	野州宇都宮城(絵図)〔パネル〕		小室家 746	後 期
12	房川渡中田御関所御達扣	慶応 4.	足立家 177	前

		4.21～		期
13	世態見聞誌 第二帖—展示箇所は市川・船橋戦争—	慶応 4	林家 7042	後期
14	内外新報 第十一号—展示箇所は古河藩の関所警固等—	慶応 4.閏4.3	林家 7293 のうち	後期
15	御府内市中有志中(府内官軍討払の旨等張札写)	慶応 4.閏4.6	足立家 180	前期
16	江城日誌 第五号 [パネル]—展示箇所は上野戦争—	慶応 4.5.16	林家 7282	全期
17	彰義隊と官軍との戦につき書状	慶応 4.5.18	西角井家 791	後期
18	中田・栗橋両宿江御官軍御用二付増助郷被仰村正勤二付 日ノ惣代并両宿役人其外附届諸懸り取調拾三ヶ村割合帳[パネル]	慶応 4.5.朔～	大熊家 3795	後期
19	覚(関所・高札・付属の品々引渡目録)	慶応 4.7	足立家 178	全期
20	房川渡中田御関所絵図面[パネル]		足立家 244	全期
21	民政裁判所勤仕仰出につき廻状等写	慶応 4.5.晦～	足立家 296	後期
22	松平若狭守言上書(松平容保降伏謝罪書等写)	慶応 4.9	足立家 152	全期
23	会津若松城周辺絵図		林家 7006	全期
24	諸侯方より拝領目録金留帳	明治元.10.朔～	足立家 350	前期
25	御扶持御給金請取帳	明治元.11.3～	足立家 375	後期
26	太政官貨幣方鑑札	(慶応 4.閏4.カ)	足立家 232	全期

27	子供あそびぼんでんまつり(戊辰戦争風刺錦絵)[前期はパネル]	(慶応 4. 5 カ)	足立家 1051	全 期
28	徳用奥羽屋(戊辰戦争風刺錦絵)[後期はパネル]	(慶応 4)	小室家 6362-1	全 期

### 3 栗橋関所の廃止

29	御関処日記—展示箇所は古河藩勤番解除— —	明治元.12. 朔～	足立家 63-1	後 期
30	御関処日記—展示箇所は関所廃止—	明治 2. 2. 5 ～	足立家 64	前 期
31	太政官日誌 明治二年第八[パネル]—展 示箇所は関所廃止—	明治 2. 正.17～	行政文書明 11のうち	全 期
32	太政官日誌 明治二年第十三—展示箇所 は関所廃止—	明治 2. 2. 2 ～	林家 7706	全 期
33	史生の辞令(葛飾県)	明治 3. 5	足立家 302	前 期
34	葛飾県御達写(家禄給与等に付達)[パネ ル]	明治 4. 2	足立家 61-5	後 期
35	御届書(印旛県免職、栗橋旧宅へ引越に付 届)	明治 5. 5	足立家 301	後 期
36	家禄奉還御願書[パネル]	明治 7. 6	足立家 61-6	前 期

※展示期間 前期 3/5(火曜日)～4/21(日曜日) 後期 4/23(火曜日)～6/2(日曜日)

全期 3/5(火曜日)～6/2(日曜日)